

第 620 回 難研セミナー

第 195 回 難治疾患共同研究拠点セミナー

第 2 回 トランスオミクスセミナー

下記により難研セミナー(オンライン)を開催しますので、多数御来聴下さい。
参加をご希望の方は、下記申し込み先メールアドレスへのご連絡をお願い致します。
ご参加に必要な ID と PW をお送りします。

記

日 時： 2019 年 1 1 月 1 9 日 (木) 17:00 ~ 18:30

場 所： Zoom を用いたオンラインにて開催

演 者： 横溝 岳彦 教授

(順天堂大学大学院医学研究科生化学第一講座)

演 題：ロイコトリエン B4 受容体 BLT1 発現が規定する
マクロファージと樹状細胞サブセットの機能解析

要 旨：

ロイコトリエン B4 (LTB4) は強力な白血球走化性因子として知られ、G タンパク質共役型受容体 BLT1 を介してシグナルを伝達する。我々は BLT1 に対する高感度単クローン抗体 7A8 を樹立し、様々な白血球における BLT1 発現を検討した。ほぼ全ての好中球が BLT1 を発現していたのに対し、マクロファージや樹状細胞では一部の細胞だけで BLT1 の発現が観察された。BLT1 を発現するマクロファージは、古典的に M2 タイプに分類される CD206 陽性のサブセットであった。レーザー網膜障害で誘導されるマウス加齢黄斑変性症モデルを作製し、病的血管新生における LTB4/BLT1 の役割を解析した。BLT1 発現マクロファージは LTB4 依存性に VEGF を産生し、病的血管新生を促進していることが分かった。

脾臓や骨髄誘導性の樹状細胞では、約 30% が BLT1 陽性細胞であった。BLT1 陽性樹状細胞はリンパ節へのホーミング能が低く、大量の IL-12 を産生し、Th1 応答を強く誘導した。接触性皮膚炎モデルにおいて、BLT1 陽性樹状細胞は炎症局所にとどまり、病態を悪化させていることが分かった。我々は最近、BLT1 の結晶構造の解明にも成功し、構造をベースにした新規 BLT1 拮抗薬の開発を通じた新しい抗炎症薬の創成を目指している。

申し込み・連絡先： 病態生理化学分野 佐々木雄彦(内線 5822)

申込先メールアドレス : tsaspip@tmd.ac.jp